

4月22日・第15回 春の遠足に行ってきました!



毎年春・秋に行っている遠足も15回となりました。今回は4月22日に8名の方にご参加いただき、愛知牧場に行ってきました。

遠足は、日ごろのつらさを忘れて楽しもうということではなく、同じ経験の中で集まった者同士、ぜひより深く知り合いになっていただき、お互い支え合える関係を築ききっかけになってほしいとの思いからやっております。

今回は、何度も遠足に来ていただいている方にはお馴染みの場所ですが、「愛知牧場」でした。なぜか、愛知牧場はここ何回か雨ばかりで……。今回も願いも空しく雨。でも、その分、人も少なくゆったりと過ご

すことができました(!?)。雨の日は個人的には好きなのですが。

バーベキューをしたあと、牧草の原っぱにある小屋でお茶を沸かして飲みました。写真は、その小屋から撮ったものです。写真にも写っていますが、菜の花がちょうどきれいな時期でした。

次回は、秋に予定しています。ご都合がつかましたら、ご参加いただければと思います。ご参加のみなさま、おつかれさまでした。

総合対策大綱見改正の動き

2007年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」は、2012年の改正に向けた見直しが作業が行われています。

「自殺総合対策大綱」は、「自殺対策基本法」(理念法)をもとに、より具体化した施策、目標を定めたものです。そこには、自死遺族支援に関する基本的な方向性も示されています。

改正に向けた「提言第二次案」がまとめられ、その案に対して3月にリメンバー名古屋も意見を提出しました。

5月23日には、関東方面、5月31日には、関西方面の「自殺総合対策大綱の見直しに向けた民間団体ヒアリング」が内閣府主催で行われました。いずれにもリメンバー名古屋には参加の打診はありませんでした。

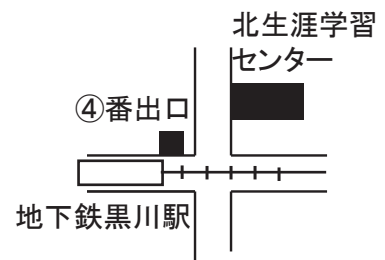
現状ではまだ、具体的な草案は提示されていない段階ですが、これまでの議論を見ていると予防的な内容がほとんどを占め、遺族の支援についてはあまり内容が充実していかないようです。

これからも、改正の動きについては注視して行きたいと思います。

次回の遺族会

第52回

6月10日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は・・・

第53回

8月5日(日) 北生涯学習センター

2011年度会計報告

たいへん遅くなりましたが、2011年度(2011年1月1日～2011年12月31日)の会計報告がようやくまとまりましたので、ご報告させていただきます。

遺族会の時いただいております会費(現在500円)は、下記のように使わせていただいております。また、共に支え合うという自助グループであることから、スタッフとしての参加者も参加費を支払って会の運営に充てています。ご寄付を頂戴し誠にありがとうございました。今年度は新しい冊子「自死遺族の手紙」を発行し、その送付お申込みを多数いただきました。

これまで同様、会計規定に則り大切にに使わせていただきます。

また2011年3月の「自死遺族の手紙」冊子の増刷、2012年1月に、「リメンバー名古屋in岡崎」を開催しましたが、その費用は、「愛知県地域自殺対策緊急強化基金」で賄っております。

収支計算書(遺族会会計)	
【収入】	234,787
●遺族会会費	75,500
2月	8,500
4月	12,000
6月	19,500
8月	11,000
10月	10,000
12月	14,500
●リメンバー新聞会費	10,940
●その他	148,230
寄付	52,105
冊子申込送料等	39,387
冊子買取	57,000
(「自死遺族のメッセージ」冊子)	
その他	-262
●受取利息	117
【負債】	0
●未払金等	0
【正味財産】	738,642
●昨年度からの繰越	683,922
●今期収支差額	54,720
●イベント会計へ移管	0

貸借対照表(遺族会会計)	
【資産】	738,642
●現預金切手計	738,642
【負債】	0
●未払金等	0
【正味財産】	738,642
●昨年度からの繰越	683,922
●今期収支差額	54,720
●イベント会計へ移管	0

収支計算書(イベント会計)	
【収入】	0
●遺族会会計より振替	0
【支出】	0
【今期収支差額】	0
貸借対照表(イベント会計)	
【資産】	500,000
●現預金切手計	500,000
【正味財産】	500,000
●昨年度からの繰越	500,000
●今期収支差額	0
そのまま、次期に繰り越し。	

ご寄付いただいた方	
Sさん ¥10,000	ご寄付いただき、
Iさん ¥920	どうもありがとう
Sさん ¥1,000	ございました。
Oさん ¥1,000	また、冊子お申込
Nさん ¥1,000	みの際、少し多く
Oさん ¥2,000	切手をお送りいた
Aさん ¥20,000	だいた方も多数お
Iさん ¥2,134	られ、ご寄付とし
Kさん ¥3,000	て計上させていた
Sさん ¥1,000	だいております。

※今後のイベント、冊子制作等大きな出金のための保管会計

収支計算書(イベント会計)	
【収入】	0
●遺族会会計より振替	0
【支出】	0
【今期収支差額】	0
貸借対照表(イベント会計)	
【資産】	500,000
●現預金切手計	500,000
【正味財産】	500,000
●昨年度からの繰越	500,000
●今期収支差額	0
そのまま、次期に繰り越し。	

リメンバー名古屋 会計規定 2007

「会の活動」に関してかかる収入・費用を、以下のよう
に定め、会の会計により処理するものとする。

- ・会の活動とは、遺族会、スタッフ会議、講演会シンポジウムなどのイベント、他団体自治体等との必要な会議、会に対する取材対応、遠足の会、作文の会など。
- ・会の名前を使用するなどしていても、個人的な講演、寄稿、取材などについて、その報酬、費用について、会の会計は関与しない。
- ・講演会、シンポジウムなど大規模なイベントなどについては、独立採算を基本とし、最終損益の処理は都度検討する。
- ・以下に規定のないものは、都度協議する。

収入

- 会費
遺族会における会費・郵送会員年会費
- 寄付、助成金等
寄付、助成金収入

■イベント収入
イベント時の収入

費用

- 会場費
「会の活動」のための必要な会場使用にかかる費用。遺族会、会議における会場費用等。
- 通信費
「会の活動」のための必要な通信費。遺族、関係者との連絡、物品の移動にかかる通信費など。
- 交通費
「会の活動」のうち、会を代表して対外的に行うものにかかる交通費。会場取得、他団体自治体等との必要な会議、会に対する取材対応など。

遺族会、スタッフ会議、遠足の会、作文の会などへの

出席のための費用は含まない。
但し、会の運営に必要な荷物の運搬のために車で移動した場合を除く。
公共交通機関の場合・・・実費
車移動の場合・・・駐車料金、ガソリン代等、実費相当分

- 事務費
「会の活動」のための必要な事務費。新聞、パンフレット、アンケート、会議資料などの用紙、印刷費用。
- 雑費
遺族会で使用するお茶、コップなど。スタッフ内のみでの飲食費などは不可。
- イベント費用
イベント時の費用。
- 交際費等
基本的に不可。
- 活動報酬的なもの
基本的に不可

相談場所 のご案内

こころが辛い時、まずは、お住まいの地域の精神保健福祉センターにご相談されるのがいいかと思います。直接の解決にはならなくても、手助けになる情報を提供してくれる場合があります。精神保健福祉センターは、県庁所在地と、政令指定都市には、必ず設けられています。

各地の精神保健福祉センター

○名古屋市精神保健福祉センターこころぼ	▪	052-483-2095
○愛知県精神保健福祉センター	▪▪	052-962-5377
○三重県こころの健康センター	▪▪	059-223-5241
○岐阜県精神保健福祉センター	▪▪	058-273-1111
○静岡県精神保健福祉センター	▪▪	054-286-9245
○浜松市精神保健福祉センター	▪▪	053-457-2709
○長野県精神保健福祉センター	▪▪	026-227-1810

※名称は必ずしも「精神保健福祉センター」とはなっていません。

※政令指定都市(名古屋市など)にお住まいの方は、その市のセンター、その他にお住まいの方は、都道府県のセンターが窓口になります。

※以下は、愛知県、名古屋市の情報を中心にお伝えしますが、各地域のセンターの多くには同様の窓口があります。

遺族面接相談のご案内

面接による自死遺族相談(無料)があります。
※電話による予約が必要です。

○愛知県精神保健福祉センター

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分 予約 052-962-5377

○名古屋市精神保健福祉センターこころぼ

毎月第3火曜日 午前10時-12時 予約 052-483-2095

電話相談のご案内

電話による相談窓口です。自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

○あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター

毎日 9:00~16:30 052-951-2881

○名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターこころぼ

月-金 12:45~16:45 052-483-2215

民間の電話相談

○NPO法人グリーフケア・サポートプラザ (自死遺族向け相談)

火・木・土 10:00~18:00

03-3796-5453

○社団法人日本臨床心理士会 (自死遺族向け相談)

毎週水曜日 19:00~21:00

03-3813-9970

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。

日時: 2012年7月14日 (土) 13:30-16:00

場所: 名古屋市中村生涯学習センター

対象: 家族以外の人を自死で亡くされた方

連絡先: the.dearest1@gmail.com

▪ <http://dearest.heyajp>

自死者追悼法要のご案内

浄土宗教宣師会が毎年「時の記念日」(6月10日)に「自死者追悼法要」を行っています。東京での開催ですが、よろしければご参加ください。

※浄土宗の法要を行います、ご参加の方の宗派は問われません。

日時: 2012年6月10日 (日) 16:00-19:00

場所: 浄土宗大本山増上寺 大殿三階道場 (東京・JR「浜松町」駅もしくは「芝大門」駅下車)

連絡先: 「ともに祈る」事務局

メール: tomoni-inoru@jodo-tokyo.jp

電話: 080-3531-4079

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 80円切手13枚

7月~12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 80円切手7枚

お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

遺族会当日に、お茶の買い出し、参加者の案内など、継続的でなくても結構です。

詳しくはお問い合わせください。

リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「その夏の別れ」（和田俊/著）を紹介させていただきます。

土曜日の午後、春の柔らかな日差し、和田先生の穏やかな声。「現代ジャーナリズム論」と題された講義に私は出席し、和田氏の薫陶を受けていた。本書『その夏の別れ』の著者、和田俊氏に関する私的な思い出です。和田氏は2002年に自らもガンで倒れるまで、教鞭をとり続けました。

「愛なくして、死なし」著者が最愛の妻、亜紀さんをガンで亡くしてから、紡いだ言葉です。著者は本書の中で「もし、一生を通じてひとりの人をも愛したことがないならば、その人はついに死をも知らぬであろう。」とも書いています。著者は、最愛の妻の死を経験し、愛と死はコインの表と裏のように切り離せないものであると悟るのです。ジャーナリストとして、長くヨーロッパで生活をした著者は西欧文学と祖国の日本文学とを引き出しながら、最愛の妻を喪った自己の内に沈殿するものを表現しています。そう、「愛していた人の死こそ、真の悲しみの根源である。」と。

著者は病死で愛する人を喪いました。私達は自死で愛する人を喪いました。死別の形こそ違えど、愛より深い悲しみを自己の内に沈めているのは確かに同じだと感じました。本書は、その愛より深い悲しみをできる限り抑制をして表現しようとしているのではないかと思います。愛より深い悲しみ一、心から誰かを愛さなければ解せない感情なのではないかと、私は感じています。それを表現しようとしている本書を、私はずっと紹介したかったのです。

著者とその最愛の妻、亜紀

さんとの追憶—東京、パリ、プノンペン、再びパリ、そしてロンドン—が鮮やかに描かれ、その情景に、夫婦愛という絆の強さが感じられました。だからこそ、死別の悲しみの深さも伝わってくるのです。本書には、最愛の妻への賛美と鎮魂が静かに描かれているのも、また確かです。

本書は、1996年に初版が発行されています。そしてその6年後の2002年に著者、和田俊氏も永眠されています。あまりに共鳴し合っていた夫婦なのでしょう。その夫婦愛の一部が、本書には描かれています。これは、内に秘めたる物語だといえるでしょう。

私達もまた、著者のように内なる物語を秘めていると確信しています。遠い愛の追憶と現実の深い悲しみと。両者が混ざり合い、宝石のような煌きを持つ物語を、私達自死遺族もまた秘めていると感ずるのです。

最後に著者は、こうも仰っています。「夭折した人々には特権がある。それは、彼、あるいは彼女らは、永遠に若い。」と。私達は、老いていきます。時は無常なのです。しかし、いつか何処かで永遠に若くある、愛する亡き人と再会できる日が来るのではないかと思います。生きていきたいと思ひます。声も想い出もおぼろげになっても。思ひはきっと届くと信じて。(A.S)

★★★★本の紹介★★★★

その夏の別れ
和田俊 (著)
筑摩書房 1,500円

りめんばー

吉田秀和という方をご存知でしょうか。つい先日5月22日に98歳で亡くなられた音楽評論家の方です。41年もの間、FMラジオでクラシック音楽の番組を担当されてきました。

その渋い声と独特の語り口は、FMラジオを聴きはじめた—おそらくは中学生ぐらいから、ずっと耳に残り続けていました。特にその人の番組を選んで聴き続けていたわけでもなく、何年もの間、FMラジオ自体から遠ざかっていた時期もありました。それでも、久しぶりにつけたFMラジオには、必ずその声があったのでした。

しかし、その声の持ち主が吉田秀和という名前であることを知ったのはつい最近のことでした。テレビで追悼番組を見て、初めてその姿を拝見し、その声がどう発せられていたのか、その語りがどうして生まれたのか、その人生を少し知ることができたのでした。自分がどう変わろうとも、変わらず同じ場所に存在し続け、これからも永遠に……と思い込んでいた声の裏には、当然のことなのですが、激しい生きざまがあったのでした。

1月に会の主催で行ったセミナーで、哲学者の鷲田さんは、「人が亡くなることで死者が生まれ、そこから死者を育てる」のだとおっしゃっていました。

生きている人とは、それぞれの過去から未来へ向かう時間、それぞれの存在する空間を、ほんのひと時だけ重ねあい、しかし基本的には別々のところですれ違いながら生きているように思います。死によって他者の人生は固定化され、すれ違うことなく見つめることが可能になります。その時から死者の人生と向き合い、重なりあった自分の人生を振り返る、新たな時間が始まるのでしょうか。

吉田秀和さんの放送は、残された録音で年末までは続けられるそうです。生まれゆく死者への不思議な時間、空間からの声を、静かに聴いていきたいと思ひます。(KN)